

2024 年 10 月 29 日

岩手県宮古市にて「夜間連系太陽光発電所」の建設開始 ～太陽光発電所に蓄電池を併設して夜間の電力供給を実現します～

日本国土開発株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 林伊佐雄）、宮古市が出資する予定の「田老発電合同会社」を事業主体とする「夜間連系太陽光発電所」の着工にあたり、2024年10月29日に起工式を執り行いました。

宮古市は「宮古市2050年ゼロカーボンシティ」を表明し、省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入促進により2050年までにCO₂の排出を実質ゼロにする取り組みを進めており、2022年11月に「脱炭素先行地域」に選定されています。

当社は、この「宮古市脱炭素先行地域づくり事業」の一環として、「夜間連系太陽光発電所」事業を推進しており、このたび着工に至りました。「夜間連系太陽光発電所」の建設は、2015年に宮古市内で運転を開始した田老太陽光発電所の隣に新たに太陽光発電所と蓄電池を設置するものです。これにより、系統を有効活用でき、さらに夜間も電力を供給できるようになります。

また、市民参加型の事業とするため、市民ファンドも計画しております。

◆夜間連系太陽光発電所の概要

事業主	田老発電合同会社
出資予定者	日本国土開発(株)、宮古市
事業地	岩手県宮古市田老向山地内
パネル容量	2,969 kW
蓄電池容量	7,987 kWh
事業開始	2025年12月(予定)
一般世帯換算	623世帯

◆田老太陽光発電所の概要

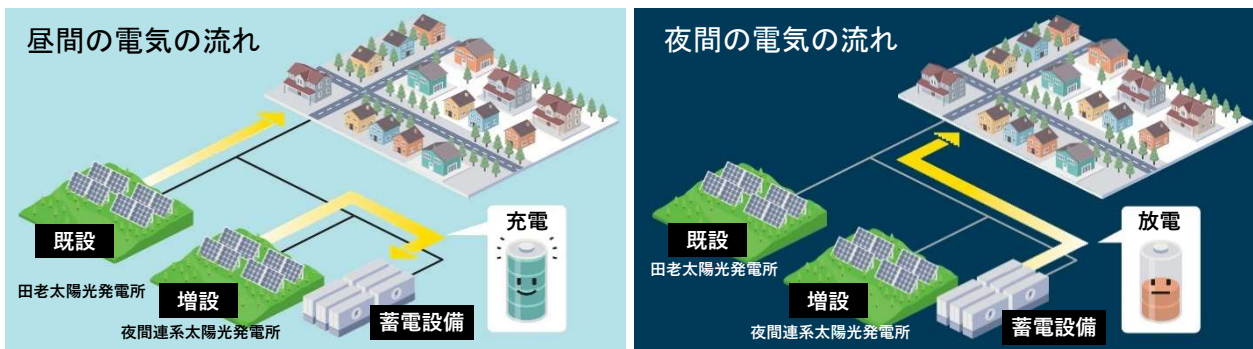
事業主	宮古発電合同会社
出資者	日本国土開発(株)、宮古市、 アジア航測(株)、復建調査設計(株)
事業地	岩手県宮古市田老向山地内
パネル容量	2,356 kW
一般世帯換算	670世帯



夜間連系太陽光発電所の建設予定地（画像上部）と田老太陽光発電所

◆夜間連系太陽光発電所のイメージ

夜間連系太陽光発電所は、昼間に発電した電気を蓄電設備にて充電し、夕方から夜間にかけて放電を行うことによって、昼夜を問わず安定的な電力供給を目指すものです。



※発電量の少ない朝方などや蓄電池が満充電された際は、直接系統に電力を供給します。

◆起工式の模様

起工式には宮古市の山本正徳市長をはじめ、関係者約50名が出席されました。



起工式の模様(左画像は挨拶をする日本国土開発の林伊佐雄社長)

◆当社代表取締役社長 林伊佐雄のコメント

東日本大地震で甚大な被害を受けた宮古市様は、復興に向けた施策の一つにスマートコミュニティ構想を提唱されました。当時、我々も復興への貢献を第一に事業を進めていましたので、この構想に参加させていただき、2015年に津軽石太陽光発電所と、田老太陽光発電所の運転を開始しました。2021年には宮古市様が当事業に資本参加され、地産地消のエネルギー確保と宮古市版シュタットベルケ※の構築が実現しました。

そして2022年11月、宮古市様は脱炭素先行地域に選定されました。このたび着工の運びとなりました「夜間連系太陽光発電所」は「宮古市脱炭素先行地域づくり事業」の一環として実施されます。この宮古市様の取り組みが他地域のモデルケースになると期待しております。

※様々な再生可能エネルギー事業へ市が資本参加することにより得られる収益を、再生可能エネルギー基金を通じて、地域公共交通の運営など地域課題の解決のための財源として活用する仕組みです。

この件に関するお問い合わせ先

日本国土開発株式会社 サステナビリティ経営本部戦略部(広報担当) 電話: 050-1735-9468